



なんかんライフ

2022
11
vol. 262

中面
特集

栄養満点!おいしく健康 **あつまれ!キノコ好き**
なんかん NEWS ただいまーと イベント情報 なんかん「思い出エピソード」募集!

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



撮影日/9月18日

なんかん管内では9月中旬にそばの白い花が咲いていました。可憐に咲き誇る純白の花と黄金色に輝く稲のコントラストはまさに秋の絶景です。今回は三条市下田地区でそばを栽培する農事組合法人ならやまの代表、川村貴則さんにお話を伺いました。

川村さんは今年の2月に法人の代表を引き継ぎました。法人は現在18人おり、経営面積は水稲を中心に約27ヘクタールあります。3年前から水稲の極早生品種「ちほみのり」の田んぼで米とそばの二毛作に挑戦。「そばは肥料もあまり必要なく比較的栽培しやすい品目。しかし二毛作の挑戦にはまだま

だ課題がある」と話す川村さん。今年は畑と田んぼの計3ヘクタールでそばを栽培しています。

そば栽培は水はけの良い環境が必要で、特に播種作業から発芽までの期間は土壌が乾燥していることが重要。「ちほみのり」を収穫した田んぼではすぐにそばの播種作業ができるよう、刈り取り翌日に稲わらをすき込んで耕起(こうき)し、水はけの良い土づくりを行います。川村さんは「多くの消費者から下田産の美味しいそばを味わってほしいです。そのため安定した収量の確保を目指し、機械導入による省力化と二毛作の研究に努めていきたい」と意気込みを語られました。

管内のそばは10月中旬から刈り取りが始まり、JA施設で乾燥・調製作業を行います。その後、11月下旬から玄そば(殻つきのそば)・製粉としてJA各あぐりセンターで販売します。

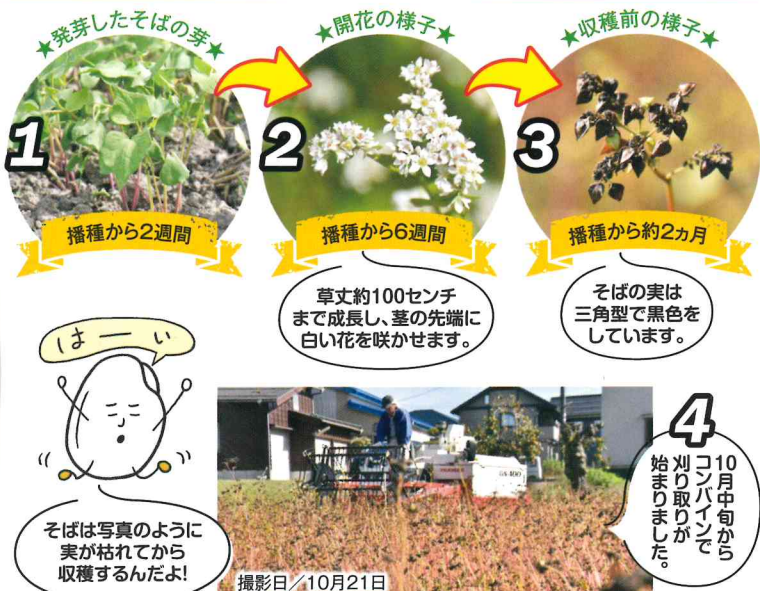
「地域の役に立ちたい」から始まった農業

就農したきっかけは「2011年の新潟・福島豪雨で地元楡山地域も被害を受けましたが、地域の団結力を目にして、自分も何か役に立ちたいという思いから翌年に就農しました」と振り返る川村さん。法人の代表としては今年1年目ですが「私が前代表からバトンを繋いでいただいたように、次の世代にも良い形で繋げるよう取り組んでいきたい」と力強く述べられました。下田産のそばについては「ぜひ下田に足を運んでいただき、下田産の美味しいそばを食べてほしい。また9月に咲く満開のそば畑も見に来てほしい」と笑顔で話されました。

農事組合法人 ならやま
三糸市 かわむらたかのり 下田地区 代表理事 川村貴則さん(38歳)



Before 《収穫までのビフォーアフター》 After



撮影日/10月21日